

千年が終わると

2026年9月20日

ヨハネの黙示録 20章7～10

コリント人への手紙Ⅰ 15章24～28節

序：千年王国は神の創造の初め（アダムとエバが背きの罪を犯す前）以降で最高の環境
サタンは千年間、底知れぬ場所につながれ、身動きがとれない（活動なし）
平和と繁栄、真理と聖潔と義が特徴、建設、植樹、労働が祝福される
統治系統は、メシア⇒ダビデ⇒12使徒⇒首長たち⇒さばきつかさと参議たちが
全イスラエルを統治
イスラエルは異邦人たちを統治

サタンの活動がないので、人間が罪を犯す事も少ないが、罪と死はまだ存在する
千年王国の始まりには不信者はいない

復活のからだを持った人達は子を産まない

イエス・キリスト

旧約時代の聖徒たち

教会時代の聖徒たち

患難時代に殉教した聖徒たち

二人の証人

患難時代を生き延びて千年王国に加わった異邦人信者の子ども

復活のからだではない（自然体）

結婚する、生まれてくる子どもは原罪をもつ

百才になるまでに信仰を持たない者は死ぬ イザヤ65・20

”

信仰を持つ者は千年王国の終わりに復活する

千年王国が終わるまでに、不信者（百才以下）の数は増えている

千年王国の終わりに起きる二つのこと

(1)サタンが解放され、反乱を起こす

(2)白い御座のさばき（すべての不信者たちへのさばき）が行われる

I. サタンの解放と最後の反乱 黙示 20・7～10

(1)千年が終わるとサタンが獄から解放される

(2)サタンは諸国の民（不信者）を惑わし欺いて、反乱のため軍隊を召集する

ゴグとマゴグ（エゼキエル 38・1～39・16）

患難期の前に起こることの一つ：北の国々がイスラエルに侵攻する

マゴグ：地名 ゴグ：王、指導者

これとは異なる、イスラエルに侵攻という類似点

サタンの欺き、集められる若い層は地の果てまで及ぶ大軍 ⇒ 大反乱

(3)その軍勢は千年王国のイスラエル、都エルサレムに上って行き、包囲する

(4)戦う間さえずなく、天からの火が下り、瞬時に彼らは焼き尽くされる

(5)サタンは火と硫黄の池に投げ込まれる（永遠のさばき・苦しみ of 場所：地獄）

獣（反キリスト）と偽預言者はすでに千年前にそこに投げ込まれた 19・20

悪のトリオは再会、その活動は終わる・永遠の始まりを迎える

Ⅱ. 権威の移行 コリントⅠ 15・24～28

- (1) イエス・キリスト（御子）は父からいっさいの権威を与えられている
その権威は今現在は教会を通して行使されている
- (2) 千年王国でこの権威は、キリストによって王国を統治する時執行される
- (3) この権威は御子から父なる神に返還される 24節
敵（あらゆる支配・権威・権力）はみなキリストの足下に置かれ、服従
- (4) 最後の敵はサタンではなく死
千年王国で生まれる者の中には不信者も存在する
人間に死をもたらしたサタンが最後のさばきを受けるまで、死は存在する
- (5) 神は万物をキリストに従わせる
- (6) 御子ご自身も、父なる神に従う
神がすべてにおいてすべてとなられるため

Ⅲ. 結び

- (1) 千年王国の終わりにはふたつの大きな出来事がある
 - ① サタンの解放、最後の反乱、最終的さばき
 - ② 白い御座のさばき（すべての不信者の復活とさばきの施行）
- (2) さばきは徹底して神によって行われる
- (3) 最後の敵はサタンではなく死 死への勝利は復活である
千年王国のおわりに千年王国の信者も復活する
- (4) 父なる神が御子にいっさいの権威をお与えになった（イエスの死と復活ゆえ）
御子はいま教会を通してその権威を行使
〃 将来千年王国を治める時 〃
千年王国が終わるとき、万物が御子に服従、御子も万物とともに父に従う

ローマ 11・36

すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に
栄光がとこしえにありますように、アーメン。